

宇治市の公共交通の取り組みについて

●のりあい交通事業の取り組み状況

(1) 明星町：明星町自治会

- H26. 4 ～ 明星レインボウバス試験運行開始
 H27. 3. 31 本格運行協定書締結（明星町自治会、京都京阪バス株式会社、宇治市）
 4. 1 ～ 本格運行に移行
 H29. 4 本格運行 3 年目開始

<利用促進>

- H28. 6～8 株式会社平和堂「フレンドマート宇治菟道店」との協働によるスタンプラリーキャンペーン
 →明星町からバスを利用し、発行される乗車証明書を持って、フレンドマート宇治菟道店で 1,000 円以上の買物をするとスタンプ 1 個がもらえ、スタンプ 12 個で 500 円の商品券と交換できる仕組み。
 7 中旬 明星レインボウバス案内看板を更新（停留所、三室戸寺駐車場、観光案内所、JR 宇治駅）
 H29. 2～3 明星レインボウバススタンプラリー
 ⇒バス降車時にカードにスタンプカードを押印、スタンプの多かった上位 50 人にバスカード（1,000 円）をプレゼント。

<収支状況>

◎明星レインボウバス収支結果(平成 28 年度)

運行経費(千円/年) = 運送経費(円/km) × 路線走行距離(km/日) × 運行日数 × 適正利潤 × 消費税

※H27 運送経費 441.18(円/km)、路線走行距離 79.3(km/日)、運行日数 366 日、適正利潤 5%、消費税 8%として計算。(マラソン大会による運休分・運送距離 9km を除く。)

【運行経費】 約 14,516 (千円/年)・・・①

【運賃収入等】(現金、磁気カード、ICカード) 約 9,216(千円/年)
 (定期) 約 958(千円/年) (広告収入) 56(千円/年)
 計 約 10,230(千円/年)・・・②

【欠損額】 ①-②=4,286(千円/年)・・・③

【収支率】 ②/①≒0.704・・・④

定期、広告収入を含めた収支率は 70.4%

【明星町・宇治市の負担額】

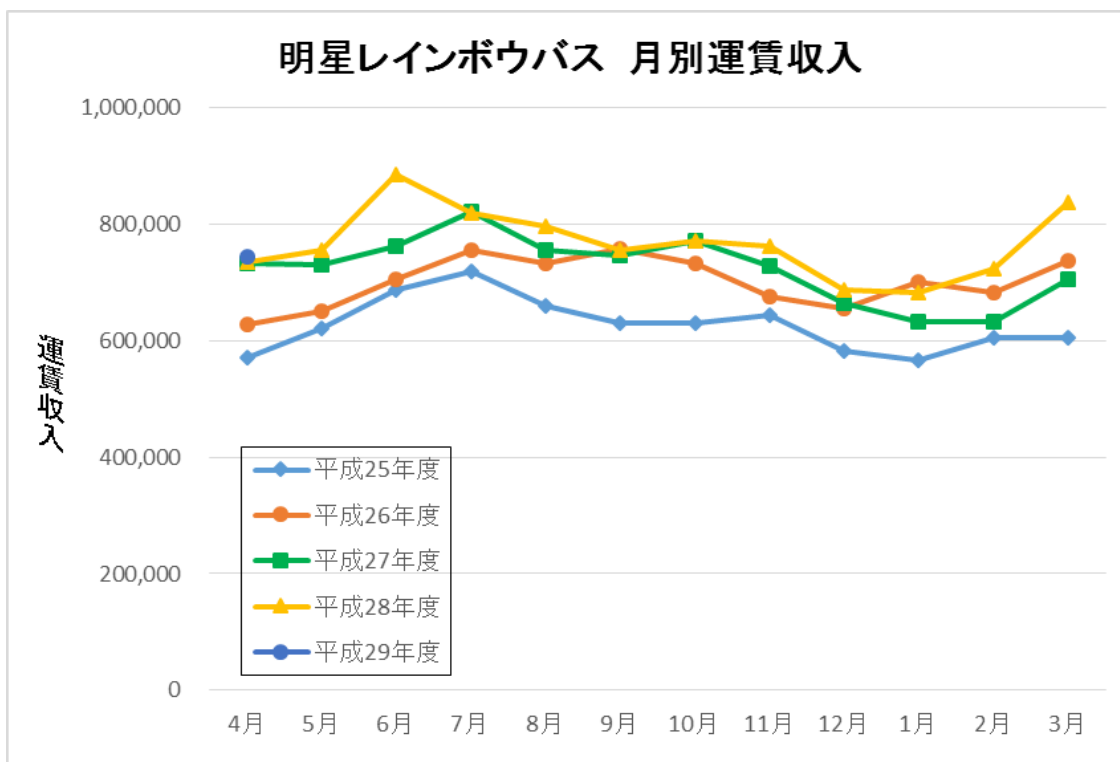
市補助金=③×④≒3,017(千円/年)・・・⑤

地元負担額=③-⑤=1,269(千円/年)

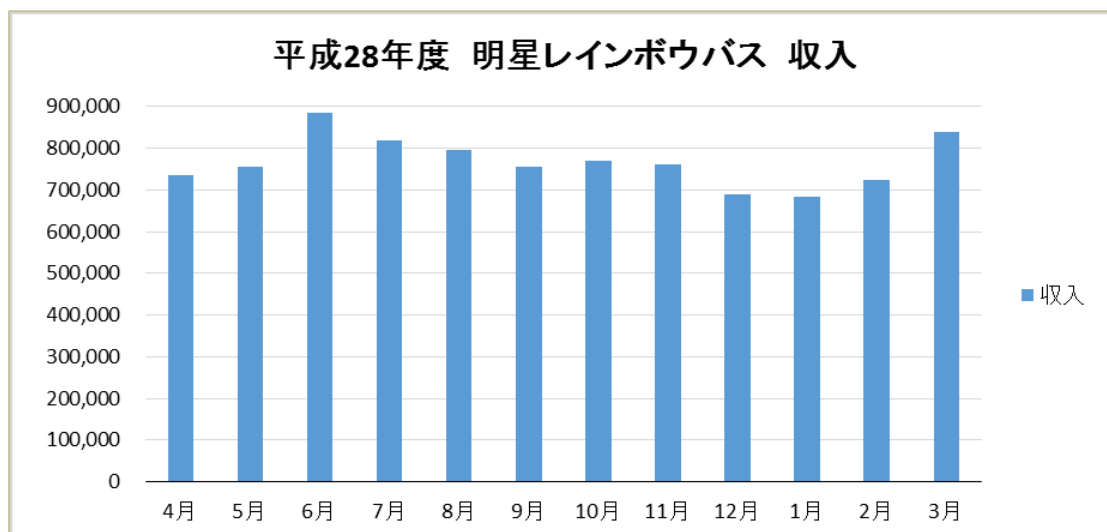
⇒830 世帯で割ると、1 世帯 約 128(円/月)

現金、磁気カードの月別収入は以下の通り。

(下図は年度比較のため定期・広告収入は含まず。H27.3.1からICカードシステム導入)



※平成 25 年度については、以前運行していた小倉・明星線のデータを適応。



(2) 西小倉：西小倉自治連合会（西小倉のりあいタクシー運営委員会）

- H27. 5月 のりあい交通計画(素案)アンケート
9 末～ 「西小倉地区のりあい交通サポート会員」の募集
⇒800 世帯以上を目標に会員を募集したところ、
336 名の応募であった。
- H28. 5～7 運行計画を変更し、再度会員募集
⇒最終 254 名で、試験運行を実施することとなった。
- H28. 11
～H29. 1 交通事業者公募
⇒4 社の提案があった。H29. 1 開催の業者選定委員会により、指名事業者を
加茂タクシー株式会社に決定。
- ※以降の経過については、「資料 2」にて説明。

アンケートの結果から、サポート会員制（年間 1,000 円）を検討。

(3) 槇島町：NPO 法人 まきしま絆の会

- H26. 7. 13 全町内会長を対象に説明会を実施
- 9～H27. 6 計画路線沿いの町内会を対象に同様の説明会を計 8 回実施。(13 町内会で実施。
- H27. 9～12 協力の意向を持つ 9 町内会(約 1300 世帯)が集まり、運行計画や費用負担について、住民意見を集約するため、9 町内会でアンケート調査を実施。
⇒アンケート結果から約 650 世帯の 1 町内会が本事業参加に難色を示した。
- H28. 2～ 1 町内会と本事業への参加について協議。
- H28. 10～ 同志社大学と地元により「槇島地区バス運行に関するアンケート」を実施され、今後の運行計画について検討中。

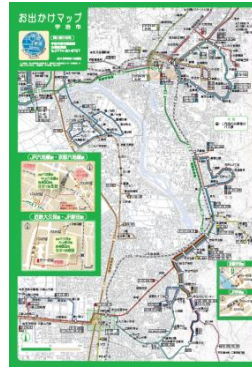
●公共交通の利用促進に関する取組

(1) お出かけマップの更新：平成 28 年 3 月 19 日、平成 29 年 2 月 25 日

⇒バス事業者が実施する路線変更に伴い、マップを更新するとともに、マップ裏面に主要駅のダイヤやバスの乗り方等の情報を記載。

年度	配布部数（累計）
H26	3,440 部
H27	5,600 部
H28	7,000 部

お出かけマップ累計配布部数



(表面)



(裏面)

(2) IC カード利用範囲の拡大

⇒宇治市内を運行している全バス路線において、IC カードシステム整備に対する補助金を支出し、IC カードの利用を可能とし、利用促進を行なった。

(3) 宇治橋通り「わんさかフェスタ」での啓発

⇒公共交通利用促進のため、子供たちに鉄道やバスの塗り絵（裏面に「かしこい車の使い方」を記載）をしてもらい、ラミネート加工して記念に持って帰ってもらうなどの取り組みを行った。また、お出かけマップの配布も行った。



H28. 10. 22 わんさかフェスタ

(4) 市内小学校での交通学習の実施

⇒三室戸小学校、京都京阪バス(株)の協力のもと、2 年生 88 人を対象に、バスを題材にした交通学習（地域を運行しているバスの紹介や環境問題、バスにおけるバリアフリーについての学習）を実施。（12/14 1～2 時限目に実施、バス車両を 2 台使用）



H28. 12. 14 交通学習当日資料より (抜粋)